

理念
支えあい・分かち合い



藤井脳神経外科病院
〒329-1105 栃木県宇都宮市中岡本町 461-1
電話：028-673-6211 (代)
FAX：028-673-2115
E-Mail：fujiihp@apricot.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www.fujiihp.or.jp/



藤井脳神経外科病院

地域連携ニュース



2023年8月号

診療時間

○ 診察可 × 休診

診療時間		月	火	水	木	金	土
9:00~12:00 (受付 8:30~11:30)	初診	○	○	○	○	○	○
	再診	○	○	○	○	○	○
14:00~17:30 (受付 13:30~16:30)	初診	○	○	×	○	○	×
	再診	○	○	×	○	○	×
休診		水曜日・土曜日の午後、日曜日、祝日 *急患は24時間対応します。					

外来担当表

	月	火	水	木	金	土
午前	鈴木 博子	國峯 英男	鈴木 康隆	藤井 卓	國峯 英男	鈴木 博子 (第1・3週)
	田中 裕一 (第1・3・5週)	鈴木 康隆	田中 裕一	鈴木 博子	田中 裕一	田中 裕一 (第5週)
	* 淀縄 昌彦 (第2・4週)	田中 裕一	* 自治医大	西田 舞 (内科)	* 淀縄 昌彦	* 坂本 和也 (第2・4週)
	* 坂本 和也		* 交代制	* 大橋 康弘		* 滑川 道人 (神経内科)
						* 交代制
午後	田中 裕一 (第1・3・5週)	鈴木 博子 (頭痛外来)	休診	* 大橋 康弘	鈴木 博子	休診
	* 淀縄 昌彦 (第2・4週)	西田 舞 (内科)		* 獨協医大	* 淀縄 昌彦	
	交代制	* 獨協医大				

上記の担当は、都合により変更となることがあります。

* 非常勤医師

第26回日本臨床脳神経外科学会を7月15日(土)、16日(日)開催し、無事終了しました。二つの文化講演、四つのシンポジウム、9題ずつの教育講演、特別講演のほか学会特別企画などに登録参加人数683名、市民公開講座に約200名、二日間で延べ千人を超える参加者があり、盛会のうちに終了することができました。皆様のご支援、ご協力に感謝します。

文化講演では、日光東照宮稲葉久雄宮司から「世界遺産 日光東照宮」と題した得難いお話を聞くことができました。さらに懇親会では、日光東照宮での流鏑馬神事を室内向けにアレンジした流鏑馬木馬演武に参加者は驚嘆し、心を強く打たれました。もう一つの文化講演では、言語学者の田中牧郎先生による「望ましい医療の言葉」が話され、患者様という言葉ではなく「患者さん」という呼び方が望ましいことなどについて述べられました。

シンポジウムでは「認知症治療の現状とこれから」、「がんと脳卒中」、「どうする脳神経外科病院」、「連携医療」等について話し合いが行われました。それぞれに、これからの少子高齢社会における医療問題を捉え、解決策を探りながら、多職種によるチーム医療で共同作業を行いつつ、日々の問題点を解決して行こうとする意気込みを感じました。一般演題にも多くのアイデアが発表され、ポスター会場でも活発な討議が重ねられておりました。頭痛に関する市民公開講座も大変に盛況でした。もったいないほどの二日間があつという間に過ぎ去ってしまった感もあります。少子高齢社会における当協会の果たすべき役割を認識しつつ、次の会への期待を持つことができました。

今回の連携ニュースでは、新たに入局した脳神経外科医、田中裕一医師の紹介と学会報告を行います。

理事長 藤井 卓

● ご挨拶

本年8月より常勤医として着任した田中裕一です。私は自治医科大学を卒業し、出身県にて9年間の僻地地域医療に従事いたしました。その後 自治医科大学脳神経外科学教室に入局し、自治医科大学脳神経外科、自治医科大学附属さいたま医療センター脳神経外科で主にクモ膜下出血の診断と手術治療および基礎的研究や、脳腫瘍、頭部外傷などの治療を行ってきました。自治医科大学を定年退職後、県北の病院で脳外科を主体とした地域医療を行ってきました。



田中 裕一

当院では外来、救急診療、急性期病棟管理、脳ドックなどを担当しています。地域の医療に貢献できるように努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



脳神経外科医療のトピックス (26)



第26回日本臨床脳神経外科学会の主幹を経て

副院長 鈴木博子

全国規模の学会の主幹という初めての大きな仕事、職員一同診療時間の合間を使って準備に取り組み、多くの参会や支援の方々に支えられ盛況を収めることができました。一年半前からの準備、あっという間に時間が過ぎ、夢中になっていたところ気づけば終わり、十分な達成感や余計な疲労を感じる間もなく診療に戻った近況です。

昨日当直中にふと学会の写真を見直したところ、運営側としてスーツを着て真剣な表情で会場にいる職員の素顔が見え、自分の子どもの学校での緊張した姿をみる親の気分のように、ほほえましく誇らしく思えました。また、私が足を運んで聴講することができなかった各種講演については、会場の後方からの写真を見るだけで、演者の先生方の熱い雰囲気や活発な討論の様子が伝わり、大変感謝し嬉しく思いました。

今回市民公開講座では、頭痛診療を推進する患者と医療従事者の会（JPAC）、日本頭痛学会、獨協医科大学脳神経内科共催にて「ここまで進歩した頭痛診療 ～かけがえのない日常を取り戻そう～」をテーマに講演を行いました。200名を超える参加をいただき、一般の方の関心の高さを実感しました。

頭痛に悩まされている方は多くいらっしゃいます。現在診断や治療は進歩し改善されています、是非専門的治療の受診をお勧めしたいと考えます。脳神経外科専門医と頭痛専門医を兼務し、24時間画像診断や緊急治療を行うことが可能である当院では、頭痛診療を広くお受けする使命があると捉えています。脳神経外科診療と同時に頭痛診療を行っていましたが、より良い診療環境を整えるため、今回頭痛専門外来を開始いたしました。

(毎週火曜日 14時～ 担当:鈴木博子)

また、診療に携わる多くの先生方も迅速な画像診断の必要性をお感じになることがあると存じます。MRIMRAなど画像診断のみでも、すぐに対応可能となるよう、体制強化しております。いつでもご相談ください。



文化講演
日光東照宮 稲葉 久雄 宮司



文化講演 田中 牧郎先生



特別講演 長谷川 友紀先生



特別講演 高橋 泰先生

我々脳神経外科という領域は、脳脊髄の外科的加療が専門となりますが、専門的知識の習得とその維持には勉学とやはり臨床経験が必要となります。また、社会に貢献し地域医療としてその専門技術を活かすには、設備環境と手術支援、周術期管理など事務的コスト管理やメディカルスタッフの獲得と育成、現場では連携と信頼関係が欠かせません。学会での各種部会では、地域や規模が違えども、現状の医療制度と少子高齢化の中、悩みは多くが共通していました。現在、当院では24時間対応の初療から周術期管理、急性期から回復期に継続する内科外科的治療とリハビリテーションが可能となっています。多方面からの協力を得て、この体制ができていることに改めて有難く思い、一層努力をして躍進し続ける必要性を感じています。



スタッフ集合写真



市民公開講座

今回の学会を通して、様々な貴重なご意見やご要望を聴取することができました。地域連携を強化し、当病院の目指すもの（以下）に向かって、日々診療に努めていく所存です。

- 当地域における脳神経外科のセンター病院であること
- 誰もがかかりたいと思う病院であること
- 誰もが勤めたいと思う病院であること
- 日々に創意と工夫がなされる職場であること
- 仕事を通じての社会貢献と職員自らの成長が実現できること



講演



ポスター発表



領域講習

お知らせ

10月～半年程度、建物工事をいたします。長期にわたりご迷惑をおかけいたしますが、診療は通常通り行いますので、よろしくお願いいたします。